

「最新ログハウス情報」

■優れた耐震性、耐火性、快適性

各地の大地震や、2016年4月の熊本地震においても、倒壊などの大きな被害がなかったことが報告されています。協会が行なった耐震実大実験でも、ログハウスの耐震性の高さが実証されています。また60分耐火など、防耐火の大臣認定も取得しており、防火・準防火地域や特殊建築物への対応が可能です。この特長を生かし、近年では教育施設、福祉施設、などの公共建築への採用が増加しています。安全性だけでなく、親しみやぬくもりを感じさせるログハウスは利用者にも好評をいただいています。



2007年7月に日本ログハウス協会が行った世界初のログハウス実大振動実験の様子。

■東日本大震災後の仮設住宅に採用されました。

福島県内では震災後、約600戸のログハウス応急仮設住宅が迅速に作られました。内外装の仕上げ工程が少なく、工場加工部分の多いマシンカットログハウスはスピーディーに供給を行なう事ができます。また解体後の部材の再利用率高い点も仮設用途に向いているといえます。



福島県のログハウス応急仮設住宅は、「木造仮設住宅群」として2012年グッドデザイン賞金賞も受賞している。

【協会の目的・設立趣旨】

日本ログハウス協会は、日本におけるログハウスの普及と健全な発展を図り、国民生活の向上に寄与することを目的とし設立されました。協会ではログハウスの技術開発、普及、品質・性能の向上、生産の合理化などの推進に努めています。

【協会の沿革】

昭和61年 / 「日本ログハウス協会」、「全国ログハウス振興協会」が設立
 平成13年 / ログハウスの発展を図るために両団体を合併、「ログハウス協会」となる
 平成18年 / 「日本ログハウス協会」へ改称
 平成21年 / 任意団体から「一般社団法人日本ログハウス協会」となり、現在へ至る



一般社団法人 日本ログハウス協会 事務局

東京都港区赤坂2-2-19 アドレスビル1F

TEL : 03-3588-8808

FAX : 03-3588-8829

Email : info@loghouse.jp.com

最新情報は
協会ホームページで

<http://www.loghouse.jp.com>



東京オリンピックに

木の
ぬくもりあふれる
施設を!

～木を活用して森を元気に!～



一般社団法人

日本ログハウス協会



案内板 サイン ゲート

丸太をそのまま生かした個性的でダイナミックな案内板や、製材された材料で構成されたシンプルなサインボードなど、多種多様なテイスト、デザイン、サイズのもので製作可能です。ナチュラルな素材感はそのだけで人目を引きやすく、案内板やサインにぴったりです。移設や再利用も比較的容易です。



屋外施設 東屋 ベンチ シェルター

来場者の憩いの場となる東屋、丸太を生かしたテーブルやベンチなどの家具、子供たちを喜ばせる遊び心のある遊具、架構が美しい回廊やシェルターなど、さまざまな構造、用途、規模に対応が可能です。



ログハウス

倉庫、コテージなどのミニログハウスから、管理棟、ゲストハウスや集会施設など大規模なものまで対応が可能です。大人から子供まで、親しみやすく、ぬくもりのある空間が実現できます。ログハウスは、外壁の構造壁がそのまま内部仕上げとなるため、部材の種類や工程も少なく、現場での建設が容易です。日本ログハウス協会では、ログ壁などの各種防火認定も取得しています。



長野オリンピックでも採用されました!

フィンランド
ハウス
長野県白馬村



この建物は1998年に開催された長野オリンピック開催の際、長野県白馬村にフィンランドのナショナルチームのために、フィンランド産の木材を利用して建てられたログハウスです。フィンランドらしい本格サウナに日本式の温泉浴場も備えた施設は選手やスタッフの休憩やミーティングなどの用途のほか、フィンランドの協賛企業を紹介するブースも設けられています。オリンピック開催期間中にはサンタクロースやフィンランド大統領も訪れ、選手の激励と文化交流の場としても利用されました。施設の用途・目的上、セキュリティゲートが設置されています。